

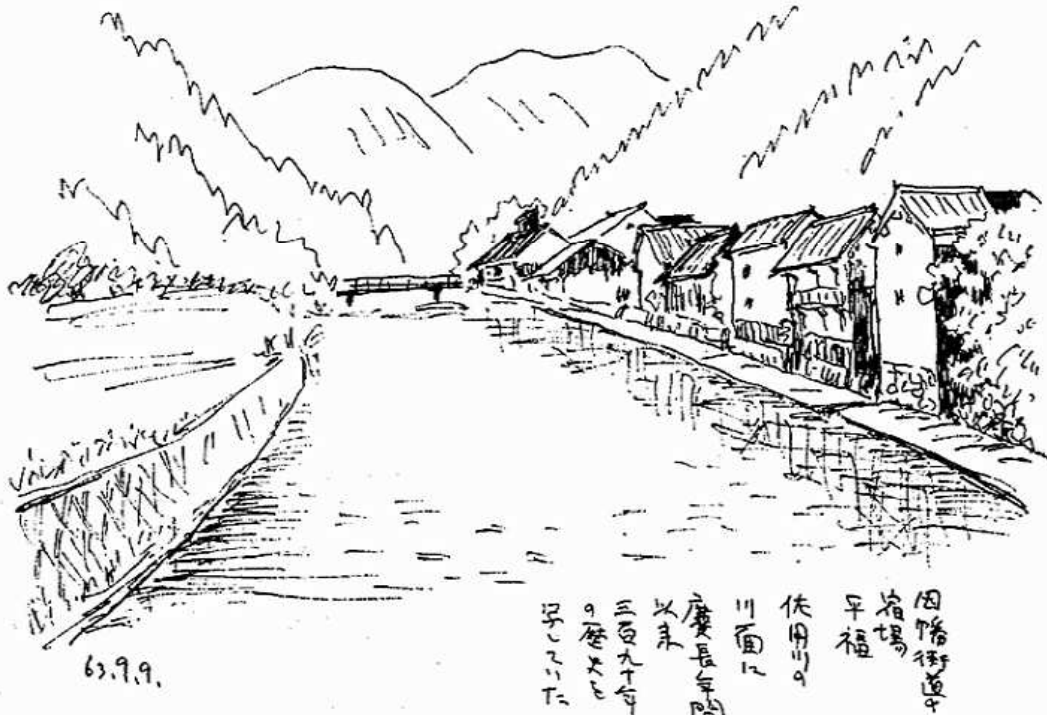
佐保会兵庫県支部だより

第12号

佐保会兵庫県支部事務局

神戸市東灘区西岡本6-9-18

☎ 658 ☎ 078-431-5004



林 利三郎氏画

同窓の諸姉の

業績にあやかって

浅野 晶子 (昭23・家)

れました。

兵庫県下では、つい先頃勇退され
ました印部先生は委員長の要職
にもつかれ、兵庫県の教育界では

誰一人知らぬ人もないご活躍ぶり
でした。その他にも芦屋、西宮、
尼崎等で先輩の方々がなさってお

られました。女高師以来の伝統
と、先輩後輩の方々の特に教育界
での実績が高く評価されてのこと
です。

かりに私が九十点の評価を得た
とします。その中七十点は奈良の
卒業生であるという事で、無条件
に点数がつくのです。有形無形の
同窓生のバックアップは何ものに
も変え難い心強いものです。

就任したばかりで、教育委員と
しての抱負など述べる時期ではあ
りませんが、私なりに三十五年教
育の道に携ってきた経験や、おか
げ様で、今日まで幅広い社会勉強
の機会も与えられてきましたので
これらを土台に一生懸命やりたい
と存じております。

どうかよろしくお願い申し上げ
ます。

この度、思いもかけず神戸市教
育委員を仰せつかり、その責任の
重さに緊張いたしております。と
申しますのも神戸市では、この四
十年間女性委員はわずかに四人、
私が五人目ということなのです。
この世界も男社会なのですね。
初代は佐保会の大先輩、小泉ハ
ツセ先生(国漢四期 故人)で
す。昭和二十三年、公選でした。
当時は公務員でも選挙運動ができ
た時代で、新卒のヨチヨチ歩き
の私も、先輩のうしろについて、
のぼりとメガホンをもって街
の辻々で、露地裏で、放課後から
夜遅くまで声をからしたものでし
た。
当時既に神戸市の婦人のリーダ
ーとして有名であった先生は、当
然上位当選と楽観していましたが、
素人ばかりの選挙運動のため
か、最後までせり合って最下位で
当選され、みんな涙・涙の喜びで
した。
先生の委員としての活躍はすば
らしいもので、その後任命制にな
ってからも一期勤められて退任さ

支部総会報告

昭和六十三年年度支部総会は、五月二十九日十時半より、貿易センタービル、バグにおいて開かれました。出席者六十名、盛会のうち午後三時、会を閉じました。

(総会内容)

司会 小池典子(昭33・文英)
一、開会のことは

副支部長 浅野晶子(昭23・家)
二、支部長あいさつ

津野貞子(昭8・家)
三、新入会員歓迎のことは

津野貞子
四、新入会員自己紹介

大林由紀(理) 白岩和美(文)
五、議事 議長 津野貞子

(1)昭和六十二年度・事業報告
支部報告：山田桂子(昭31・文)

本部報告：坪根ミキ(昭16・理)
佐保短大報告：八木静子

(昭9・文)
大学婦人協会報告：竹田喜代子

(昭22・数)
(2)昭和六十二年会計報告

内山美智子(昭20・理)
(3)昭和六十二年会計監査報告

井上 たみ(昭15・家)

(4)昭和六十三年事業計画案

松浪美年子(昭28・文)

(5)昭和六十三年会計予算案

内山美智子

(6)支部だより

前編集委員挨拶

小川澄子(昭20・理)

新編集委員紹介

正田純子(昭20・理)

(7)支部会費値上げの件

内山美智子

年額八百円→千円と決定

(8)会則変更

第四章・第十三条

五月中に総会を開き、六月第一

二日曜日を目的に総会を開き、

六、記念品贈呈

(1)米山喜代子姉(昭8・家)

勲六等宝冠章受賞のお祝い

(2)卒業後五十五年の方へお祝い

津野貞子(家) 郷美美枝(理)

田中昌代(文) 枝 静枝(保)

平井美弥(文) 高田かおる(理)

徳岡みちる(理) 米山喜代子(家)

小林きぬゑ(理) 別所きさ子(家)

清水千代子(家)

以上十一名の方々(当日六人御

出席)に堆朱のお箸をお贈りして

お喜びいたしました。

七、お話し「折紙の科学」

堀井洋子(昭26・理)

出席者全員に色紙が配られ、鶴



を折って、それをほいて折り目が角の二等分線、対角線であることを確かめました。また鶴は正方形からだけでなく、長方形、台形などからでも折れるとか、興味深いお話で、なつかしい思いにひたらせていただけました。

八、会食

川村徹、有馬四郎両先生も御参

加くださり、楽しいお話が次々出

ました。

九、閉会のことは

安達英子(昭18・文)

叙勲のお慶び

ごあいさつ

米山喜代子(昭8・家)

この度春の叙勲に際し、私こと勲六等宝冠章授の榮に浴しました。実は突然の内報に戸惑ってしまいました。もともと力不足の私ですからさしたる功もなく、ただ皆様のご指導とご支援とによって力の限り歩んできただけで、お恥かしいことですが再考の上有難く拝受することになりました。

叙勲・勲章伝達式は汗ばむほどの好天に恵まれた五月十八日正午より、国立教育会館虎の門ホールで、政務次官(文部大臣は国会開催中で代理として)により盛大に執り行われました。遠く末席の私も一入緊張し、代表者の御礼言上に決意を新たにしました。式後、勲記・勲章をいただき、勲章を佩用して皇居に向かいました。坂下門より参内した緑の中にしずまる皇居は、手入れがよく行き届き特別な聖地を感じさせ、自然と襟を正さずにはおられません。ご殿は所々に参内する人々への心づかいがなされて、心配は杞憂にすぎませんでした。豊幡雲を織り出した壁にシャンデリアの神々しい豊明殿で皇太子殿下のご接見があり、「天皇陛下のおことはお伝えします」と気高いお姿・お声に、かつて全国教育研究会終了後、皇居の庭で拝した天皇陛下のみ影が重なって、有難いお言葉にジーンと胸が熱くなりました。改めて天皇陛下のご長寿ご健康を念じ、皇室の弥栄を祈って決意新たに退出いたしました。

顧みると昭和八年三月廿四日、大阪府二出向スベシとの辞令をいただいて府立高女に一年余奉職、翌年九月半ば兵庫県立第二神戸高女に転任、ここでの十年余は素晴らしい教師集団の中でよい生徒たちに恵まれて、教育のむつかしさ・喜び・尊さを体験させていただきました。退職まで教育に携わることができ、今なおお仕合せであったと、奈良女高師を卒業させていただいたことを感謝しております。幼児教育へのかかわりは、戦後明石南高校に在職の昭和三十六年四月も半ば、突然播磨幼稚園長に任命されてからで、当時明石市の市立幼稚園は播磨を除く



昭和六十三年度 支部役員

支部長

津野 貞子 (昭8・家) 神戸 灘

副支部長

安達 英子 (昭18・文) 芦屋

浅野 晶子 (昭23・家) 神戸中央

事務局

内山美智子 (昭20・理) 神戸東灘

松浪美年子 (昭28・文) 神戸 灘

山田 桂子 (昭31・文) 神戸須磨

杉山 レイ (昭34・文) 神戸東灘

柳瀬あや子 (昭42・文) 神戸東灘

会計監査

井上 たみ (昭15・家) 神戸 灘

田辺 富子 (昭24・理) 神戸 灘

津野 貞子 (昭8・家) 神戸 灘

坪根 ミキ (昭16・B理) 神戸東灘

安達 英子 (昭18・文) 芦屋

内山美智子 (昭20・理) 神戸東灘

小池 典子 (昭33・文) 神戸 北

寺尾喜美子 (昭33・家) 神戸 灘

八木 静子 (昭9・文) 神戸須磨

大学婦人協会役員

佐藤すなほ (昭19・家) 尼崎

魚崎 茂子 (昭20・理) 神戸東灘

竹田喜代子 (昭22・臨) 神戸垂水

地区リーダー
東灘区 仲野 裕美 (昭40・家)

灘区
柳瀬あや子 (昭42・文)
松浪美年子 (昭28・文)
寺尾喜美子 (昭33・家)

中央区
横山しづ子 (昭31・文)
上田ユクエ (昭4・文)

兵庫区
郷 美美枝 (昭8・理)

北区
小田 清子 (昭10・家)
近藤 房子 (昭6・文)

須磨区
八木 静子 (昭9・文)
曾谷 愛子 (昭12・家)

垂水区
竹田喜代子 (昭22・臨)
平田 美都 (昭19・保)

西区
立石 睦子 (昭9・家)
茶谷萬寿子 (昭19・家)

加古川市
伊丹市
小川 澄子 (昭20・理)

三木市
都築 暎子 (昭37・家食)

小野市
竹崎美佐保 (昭18・文)

芦屋市
橋爪よし子 (昭9・理)

安達 英子 (昭18・文)

尼崎市
佐藤すなほ (昭19・家)
中野 久子 (昭29・理)

フレッシュさんの声

社会人になっての所感

大林 由紀 (昭63・理)



お盆も過ぎ、厳しい残暑の中にも秋の風が感じられます。佐保

私は、奈良女子大学を卒業後、富士通株式会社に勤務しております。明石工場で、ファクシミリの

検査の仕事に就いています。今まで、ファックスに触った事もなかった私です。毎日覚える事が

多く大変ですが、それだけ発見もたくさんあり、充実した日々を送っています。

先日、奈良に行く機会がありました。街は、シルクロード博のためか、人がたくさんで、いつもの奈良とは違いましたが、それでも古都奈良は健在でした。大学に続く商店街、緑が多く静かな学内と

私が四年間通った奈良のおもかげがそのまま残っております。なつかしさで胸がいっぱいになりながら、奈良を歩いておられますと

ここで四年間、学ぶことができて

て、すべて小学校の併設園で一年保育でした。独立園で二年保育、全市よりの園児募集、給食などさまざまな点で他と異なっております。これは前園長の幼児教育への熱意の結晶に外ならぬものなのです。それを全市一斉に一年保育に切換え、園児募集はその小学校区からと定められた直後で、まだ賛否両論さめやらぬときの赴任でした。から、微力な私には問題山積という感じで、十分に責任を果たすことができるかどうか心配でした。とにかく未発達で可能性に満ちた幼児の教育ですから、後退があってはならない、誠意を以て何とか前向きに進んで行こうと自らに誓いました。おかげさまで給食も従前通り実施することに、園舎・園庭の増改築も市当局の深いご理解のもとに完成することができました。しかし、ただ一つ播磨を二年保育に戻したいという切なる要望は、間断のない運動・陳情をつづけました。多くの障害はありましたが新市長を迎え、育友会の手による年少組保育の現状と要望に快く耳を傾けて下さいました。ここに漸く二年保育復活となり、順次全市にも及ぶことになりました。

微力な私が暖かい市教委のご配慮ご指導を得て、歴代の育友会長と会員の大きな力と熱意に支えられ、同園会(卒業生)のはげましを受け、先生方と共にささやかながらその責務を果たさせていただくことができました。その間、いつも背後には着任のおり、園の門前で手を振って迎えてくれた園児のかわいらしい声と目のかがやきが、私を勇気づけてくれました。

この度の身に余る榮譽を拝受するにあたり、これは決して私だけのものではないことを更めて肝に銘じ、心より皆様のご指導ご支援を深く謝し、今後この榮譽に応えるよう努めたいと念じ、ご挨拶申し上げます。後筆になりましたが、佐保会兵庫支部より、記念におめでたい京絵の抹茶碗をいただき、厚く御礼を申し上げます。

本当に私は幸せだったと思っております。毎日の生活が、奈良女子大学です。友人、先生方に恵まれ、不の卒業生として、恥ずかしくもない自由なく、学生生活を謳歌することができました。様、がんばりたいと思っております。佐保会の諸先輩方、どうか、

社会人一年生となった今は、わ今後とも御指導いただきます様、

からないことばかりでとまどうば よろしく願っています。

▲日頃心にとどめて、折あるごとに思い出し、力づけられる言葉——座右の銘を西宮在任の佐保会員にたずねました。いい言葉を沢山寄せていただきました。読むほどに感じます重みや温かさはやはり、短い文の中にそれぞれの方の人生や日常が凝縮されているからでしょうか。

「むくいをのぞまで ひとにほどかせ こは主のかしこきみむねならずや」(讚美歌の一節)
ひとすじの道を歩いてきて何もできないのです。子や孫もおりますれば、やはり元気でいた方がよからうかと思っています。

大正十三年卒

人生、生きていく上で「真心と感謝」ということが一番大事だという信念で生きてまいり、今も生きております。これはお茶の精神でもあり、八十歳すぎましたが、幸いよいお弟子さんに恵まれ、元気で過しております。

大正十四年卒

明治、大正、昭和と生きてこられた方々の、むしろ平易で謙虚な言葉に、重ねて

こられた歳月の確かさを感じます。

「人事を盡して天命を俟つ」
平常時は忘れていたような言葉ですが、何か事があった時、心に浮かぶ言葉です。

昭和四年卒

「人事を尽して天命を待て」
人生なかなか自分の思うようになりません。腹を立てても仕方がない。全力をつくして立ち向う。これがボケを防ぐ道かも知れないと思ふ年齢になってしまいました。

昭和十三年卒

「小さきは小さきながらに花さきぬ、野辺の小草の安けさを見よ」
高田保馬先生のお言葉だと思えます。私が結婚します折、友人が

「青いみかんの心を心とせよ」
女高師時代の恩師、木枝増一先生のおことば。既にしなびてしまったみかんですが、死ぬまでこの心を大切に、幼稚園の園児のように好奇心に輝く瞳で、宇宙に対して行きたいものです。

昭和十五年卒

贈ってくれました。消極的な感じを受けましたが、今の年齢になりまして、しみじみとした意味の深さを感じます。

昭和十五年卒

「自分に期限を切って課題を与え、その日までに何としてもその目標を成就しようと努力する。いつでも今しかない、今日しかないという考えで、足もとをみつめて生きてゆくこと」
老齢になりまして疲れ易く、又老人は自分に甘いと申しますが、その通りで、すぐ休憩してしまふ昨今ですので、右の考えで情性を挫くよう心掛けています。

昭和十五年卒

えうまく行かなくても「ぐち」はこぼすまいと思つて生活しております。残りもだんだん少なくなった日々を大切にしておしみながら過しております。

昭和十六年卒

「相手の心になれ」
「してあげるでもさせられるでもなく、させていただくの気持ちを持って」
女学校二年の担任の先生が常々諭された言葉です。以来五十年、折にふれ事に当って、私の脳裏をかすめます。

昭和二十年卒

他にも何人かの方が恩師の言葉をあげられました。すばらしいと思います。時代と共に師弟の間柄も様変わりしています。今、若い人と先生の絆は……。

「毎日を大切に生きる」
敗戦のあと、瓦礫を片付けて南瓜の種を播いた。先ず生きること、置かれた環境にあって精一杯生きること。今日の自分は昨日までの自分と同じであってはならない。人生は日々の積み重ねである。

昭和二十年卒

「和顔、愛語、讚嘆」
この言葉を心にくちずさみ乍ら子、孫とつづく子孫の繁栄を祈りつつ、余生を過したいと思っております。

昭和二十二年卒

「せん方尽くれど、望み失わず」
聖書の中のこの言葉を私はある雑誌の「信念の人 沢田美喜」という文で知った。エリザベスサンダースホームを創設し、三千余人の混血孤児を育てた女史は、大きな苦難を背負った破乱の人生の中で、常にユーモアをとばし、絶望の底にも希望を失わなかったという。

昭和二十二年卒

「神は愛なり」
私はカトリック信者なものですから、何時も、何かにつけて感謝して暮しています。

昭和二十三年卒

「初心忘るべからず」
二十二年前、運転免許をとった時、主人に言われた格言です。それ以来念頭において、事故を起さない心がけております。

何事も初めの志、その時の新鮮な気持、張りつめた慎重さ等は、

の 銘



家庭生活においても、仕事においてもいえる言葉だと思えます。

昭和二十八年卒

「せまき心よ柳の狭葉、^{せまき}広くもちたや、芭蕉の広葉」

卒業の時、学部長の波多腰ヤス先生が教えてくださいました。以来、人間関係に悩みました時いつも思い起しています。

昭和三十年卒

二十一年の教職生活を終え、美しく年を重ねていきたいと念じています。

昭和三十一年卒

「寂然不動」
子供達を巣立たせ、独り暮らしに重い言葉です。

「創造的な、積極的な、敏感な正確な、共感的な、批判的でない聴き方」

仕事柄大切にしている言葉です

昭和三十二年卒

「心に太陽を くちびるに歌を」

つねに明るく、温かくとこころがけております。

昭和三十三年卒

座右



これは高校卒業の際いただいた言葉「らしくあれ」より由来しています。いろいろな言葉の下につけて使えますが、私は「私らしくあればよい」と、良きにつけ悪きにつけ、自己満足したり、反省したりしております。

昭和三十四年卒

「やさしいことをひとつすると
(花が)ひとつ咲く」
斎藤隆介の童話「花さき山」の一節です。私がこの絵本と出逢ったのは二十年ばかり前ですが、今もなお、さし絵の青い花とともに何かの時に思い出されて、一杯いっぱい花を咲かせたいと念じてつづけています。

昭和三十四年卒

「いのちを大切に」
いい古されたことばですが、やっぱりここへ戻ってきます。子育ての間、やみくもに、合成洗剤、農薬など、いのちを脅やかすものを追ってきました。目の便利さに流されず、身のまわりで努力でき

昭和三十四年卒

四十歳、五十歳は実年時代とか。体験と智慧を生かして、いよいよ充実してゆかれますように。

昭和三十四年卒

「言葉は心。一つの言葉で喧嘩して、一つの言葉で仲直り、一つの言葉で頭がさがり、一つの言葉で笑いあい、一つの言葉で泣かされる」

昭和三十四年卒

好きな言葉「らしさ」

ることはしたいと思ってる。

昭和三十八年卒

好きな言葉をあげます。

「人事を尽して天命を待つ」

昭和四十年卒

「希望は失望に終わることがない」

昭和五十三年卒

「青春、朱夏、白秋、玄冬」

めぐりくる季節には、それぞれ固有の美しさがあるという意味をこの言葉に見いだして、大切にしています。

昭和五十五年卒

他人に迷惑をかけない範囲で自分のやりたいことができる人でありたい。

昭和五十七年卒

「念ずれば花ひらく」

何か願うことがある時、一心に念じていけば、いつか花ひらくのだと、大切に思ってきた言葉です。今は幼児をかかえ育児の真っ最中。思う様にいかないことが多いのですが、ふとこの言葉を思い、何か心安らぐ気持ちになりました。

昭和五十七年卒

「努力」

何事もあきらめず、前向きに頑張る。そうすれば必ず道が開けると思っています。

昭和五十九年卒

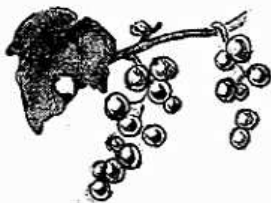
「終わりは始まり」

一つのことを成し遂げてほっと一息。しかし一つのことが終わったということは、これから新たに別の目標に挑戦する始まりでもあると思います。

昭和六十二年卒

未来が、希望が、意欲が、若い人たちの言葉から伝わってきます。

楽しく編集させていただきました。アンケートにご協力下さいました皆様ありがとうございました。



「幼な子の如くならずば」

橋本 美恵子(昭16・保)



この言葉はご存じの方も多くと存じますが、私にとりましては教育学者周郷博士のご著書にふれて以来、なお大切なものとなりました。戦前戦後をまがりなりにも幼な児とのふれ合いに生きたと申すのもおこがましいですが、常々自分は何のとりえも無い人間なのに、よくまあこの様な仕事(幼児教育)をここのまで続けさせて頂けたものだ、不思議とも冷や汗のじむ思いにかられます。戦前と申せば、幼稚園教師はやはらの一、二年は未だ時世も桜を愛でに吉野山へ皆で出かけたり、仕事を終えての帰路、街(心斎橋)のショッピングを楽しむ等、そのほかに園で月に一度位は煎茶手前のお稽古もありました。なんと優雅にも聞えましようか。然しその頃でも保育の探究はなかなか厳しく熱心で私にとっては本当に全力投球の日々、けれど楽しく充実しておりました。終戦後再びの職場は所変われど、みな復興に力を漲らせ制度も変わりました。教育界が必死で教育改革に取り組む中で幼稚園現場も同様、一からのスタート

ラインとして歩み出しは次々に休む間もない状態でも意欲に燃えました。その頃の園児の家庭や囲りの人々は、実に強力なバックアップの存在でした。そして自然環境はのびのびと安全でした。ただ今、高度経済成長の現状は私達の生活を急テンポで豊にし、一応平和でございませぬ。でも底知れない不安が消えませぬ。人間汚染、環境汚染と呼ばれる如く私の住いの周辺にも、唯一となった憩いの場としての砂浜が遂に姿を変え、四季折々の風情に大人も子どももどんなにか海を友として慰められ、心を動かされてきたことかと、住民のささやかな抵抗も大きな力には歯が立ちませぬ。今では我が物顔にカラフルなウインドサーフィンが海面をすべりその影響は陰に陽に言うをまぢませぬ。総べてがこの様に、豊かさへの追求が遂に人間らしさを奪っていくのでは、の懸念が次第に本格化しても来ませんでした。そんな時、この「幼な子の如くならずば」の著書に出会いました。題名について著者は、聖句の中の「心をいれかえて幼な子の

ようにならなければ……」「この幼な子のように自分を低くする者が天国で一番偉いのである」と続く中から、自分が少年の頃から心にあたためていたこの言葉を躊躇なく書名として選んだと書かれています。「与えられた便利、快適に溺れていて、子どもたちまでが恐ろしい老化現象をみせてきている」の周郷先生の文面に全く同感、とは失礼かもしれませんが更に、他の動物とちがう人間の条件は、「ネオテナス——どこまでも絶えず生れかわって子どものように若いということ。」「生れ

かわれば」いいのです。それを億劫にしてはいけません……と説かれています。私はこの序文に心魅かれるまま共感をもって一気に読みました。

大学生とのふれ合いに生きる昨今ですが、他のことは見えても自分の見えない私をつくづく振り返る度にこの言葉は、厳しくも有難い師のように私の座右にございませぬ。最愛の孫に、ゆとりあるつき合いを自負しながらも「宿題大丈夫？」なんて、おせっかいばあちゃんの姿を残しながら——。

私の好きな詩「勸酒」

森田 幸子(昭46・家住)



風呂屋の角を曲がると行き止まりの路地。平屋の長屋の一番奥に「酔狂画房」と味な表札。玄関前には大きな茶色の火鉢の中、金魚が泳いでいる。梅、公孫樹、万両など植木鉢が所狭しと並べてある。

格子戸をガラガラとあけて「ここにちは。」と声をかけると、正面に泥棒避けの「不精ひげで煙草をくわえたこの家の主の自画像」がじろりと鋭い眼で睨む。袂にこの

主が興に乗って墨で書いた漢詩が面白い。

勸酒 千武成
 勸君金屋危
 滿酌不須辭
 花殘多風雨
 人生足別離

土間には古火鉢の中で岩陰から沢蟹が赤い背を見せる。玄関横の飾り棚に鈴木信太郎の「阿蘭陀まんざい」の版画がピエロ風で楽しげに踊っている。上がり框に置か

れたどっしりとした食器棚に古伊万里の染付の皿やそば猪口が積み重ねられている。

「どうぞ」と低い声。

そっと襖をあげると、バレリーナのモデルを前にデッサンの真っ最中。モデルの坐っている椅子もまっすぐの四本足でなくて、猫足の肘掛け付きのゆったりしたものがある。丸い眼鏡に奈良古代裂写のパンダナをして鋭い鉛筆の線でかいているのがこの家の主。コンテで繰り返し繰り返し量感をつかもうとどっしりと腰を据えているのがO氏。パスキンの線のように微妙なふるえながらの線でもちもちした肌の感触を出そうと額にしわをよせているのがI氏。プラスチックの白い下敷に油絵具を並べてキャンバスに挑んでいるサファリジャケットのB氏。

天井には昔懐かしいランプがいくつもぶらさがっている。乳白色の朝顔型の傘の縁に色の入ったもの、折りたたんだようにギザギザになったものなど、どれにも電気かともるのが楽しい。本棚には中川一政の装丁本がすべて並んでい

る。表紙、内表紙、どこを見ても椿一輪、蟹一匹、生き生きした木版である。本棚の前には杯台がずらり三十ほど。京阪神の骨董屋を

三日に一度ずつ覗くという主の眼にかなった職人の技術と遊び心があふれたものばかり。杯と違っていては使われない焼き物だが、透かしの胴で杯の受けに虫がちょんととまっていたり、六角や花びらや富士山型など形も図柄も見ていてあきない。主がこんなに骨董好きになったのも、絵の先生のアトリエへ月一回のデッサンの勉強に通っていた頃、馬の目皿に果物が盛られたり、古伊万里のそば猪口で茶を飲んだり、丹波焼の皿で菓子を食べたりしたからである。絵に描くのに気に入った壺とか皿とか持っておかないと困るとか、実物の壺を見ながら焼き物の話を聞いた。

その先生が亡くなられた時、先生の庭の白木蓮が見事だった。先生のアトリエも建て替えられて今はない。酔狂画房の庭に白木蓮が植えられ、白蓮忌も七回を数えた。先生のアトリエのかわりにと、酔狂画房を月一回開放して、この勉強会は続けられた。デッサンのあとの仲間と酒を酌み交わし、芸術に人生に共になげき、怒り、笑い、時のたつのも忘れていると、不思議に元気が出て、星空を見上げながら、また明日からという気持ちになる。しかし、酔狂画房の

主が十三年住み慣れた長屋を去る日が来た。最後の夜に乾杯。

勸酒 井伏鱒二訳

コノサカヅキヲ受ケテクレ
ドウゾナミナミツガシテオクレ
ハナニアラシノタトヘモアルゾ
「サヨナラ」ダケガ人生ダ

「向日葵」



橋本裕子
(昭34・文幼)

今年のは、街中に「ひまわり」があふれました。洋服の柄にも咲きました。「いつでも、あなたを、見つめています。」と言う花言葉を持つ「ひまわり」の思い出は、誰にでもあると思います。三十年程前、私はギャザーのたっぷり入ったひまわりもようの、スカートを作りました。その下にファットとしたペチコートをはき、シームの入ったストッキング

を、必死のげし、先のとがったハイヒールで元氣一杯歩いたものです。

「ひまわり」と言う名の雑誌もありました。中原淳一の描く、うっとりとした夢見心地な少女が表紙でした。

「それいゆ」、「ジュニアそれいゆ」の発売の日には、胸をときめかして本屋さんに駆けこみまわった。

ソフィア・ローレン主演の「ひまわり」と言う映画も、忘れる事が出来ません。延々と続くひまわりの花々と、戦場から戻らない夫をさがし求める彼女の悲しげな、やつれた表情は、切々と胸を打つたものでした。

でも、何と言っても、「ひまわり」と言えば、ゴッホでしょう。その「ひまわり」に逢ってきたのです。

八月の下旬、超高層ビルの林立する東京の新宿に、出かけました。安田火災東郷青児美術館は、四十階にあり、展示室は一番奥まった所で、ひんやりとした空気が、ただよっていました。想像以上に大きな絵です。昨日にでも描き上げたような、なまなましく艶やかな色に驚きました。立体的で、筆あとがくっきりとわかります。

教えてみれば、十四輪の花たち。蕾のもの、花弁のおちたもの、種を持ったものなどさまざま。

見事な黄色のハーモニー。何十種類の黄色がよく調和のとれていること!! がっちりとした木彫の額の中に「ひまわり」の絵は、静かで、穏やかな表情を見せていました。

晩年のゴッホの絵にみられる、烈しさは、感じられません。

不思議がる私に、夫は(大学で、臨床薬理学の講義をしている。)ゴッホについて、興味深い話を、聞かせてくれました。

ゴッホは、「ジキタリス中毒」ではなかったかと言うのです。

「ジキタリス」とは、紫色の花をもつ植物で、現在では強心剤として、使われています。てんかん発作を持つゴッホは、「ジキタリス」の葉を煎じて服用していたらしいのです。(当時は誤って「てんかん治療薬」として使われていた。)ゴッホは、有名な耳切り事件を起こして、ゴーガンとの共同生活を破綻した後、精神病院に入退院をくり返しています。その頃から、彼の技法と色調が、特徴ある変化を示したと、言われているからです。

「ジキタリス」の副作用は、二

百年前から知られていました。その一つは、視覚異常です。黄・緑・赤・青色に対する感覚が、強くするどくなりまます。又対照物がうずまいてみえたり、光背(コロナ)が、みえたり、うねうねとゆれてみえたりします。そして、精神的に不安定になり、錯乱するとも言われています。

「耳を切った自画像」や、「星月夜」、そして遺品の一つ、「オヴェールの教会」等を見ますと、「ジキタリス中毒」を思わせる雰囲気を感じる事が出来ます。夫は、次のように話をしめくりました。「ジキタリス」の副作用が、ゴッホの創造性を触発したのではないかと思われると。ゴッホの主治医「医師ガシェ」の肖像面をみますと、何と「ジキタリス」の枝を手にはしているではありませんか。

「ひまわり」に話を戻しましょう。ゴッホにとって「ひまわり」は、感謝を象徴する観念を表わしていると言われています。

三十七歳で、命を絶った彼の棺の上には、ひまわり、黄色いダリア、黄色い小花が溢れていたそうです。黄色は、まさに、彼にとつて、「友情と希望のシンボル」であつたのです。

わが街『西宮』見てある記

日頃は何となく見過ごしてしまう身近なところに、案外楽しく有意義な施設があります。自然と文化環境に恵まれた西宮の中から、今回は比較的新しい三点をご紹介します。

菊池の類器

世界の貝と展示してあります
貝殻の美しさも見て下さい
館長 菊池勇男

——手を触れて、肌で感ず——
貝が鑑賞できます
火・土曜日午後1時～5時
開館時間

貝集めに熱中するようになられたとか。そのうち、集めるだけにあきたらず生息について特に興味をもち、現地採集に力を入れて、自ら南太平洋やインド洋の島々から採集された。その代表で貝類館の人気貝、オオシヤコ貝は、長さ一メートル、重さ三〇〇キロもある。生い繁る樹々の下、バリ島の楽器チャッカーが風の吹く度に音楽を奏で、さながら現地にいる思いがする。

湖の香のただよう海辺、西宮ヨットハーバーのすぐそばに昭和五十九年開館。元・西宮回生病院長の菊池医学博士が五十年近くかけて収集されたものに、交換・購入されたものを加えて、現在約八〇〇〇種を収蔵、そのうち二〇〇〇種を厳選して三三〇平方メートルの展示室に常設展示。ガラス板のないケースに収められていて特に児童や生徒に喜ばれている。

単に学問的な分類とは別に、ひろく人間と貝との関りを展示したコーナーもあり、一般にも楽しめる。現在は個人で管理されているため文字通り血の通った貝の博物館といえる。目下、県や市から提供を期待されているとか、肌を触れての見学は今がチャンス。

さらに、当館は常設展示のほか阪神貝類談話会（会員約一六〇名）昨年亡くなられた黒田徳米理学博士は百歳まで現役会員、老若男女を問わずアマチュア会員も含めて構成、毎月第二日曜午後一時から

例会がもたれ、会員以外でも自由に参加できる。や西宮自然保護協会のセンターとして大人から子どもまで啓蒙活動を積極的に行っている。

入館料 大人三〇〇円
子供一五〇円

西宮市大浜町一―四一
阪神香櫛園から南へ18分
電〇七九八・〇五〇六〇

歴史と憩いの広場

西田公園・万葉植物苑

万葉歌碑・水の広場など多様な施設に、一万数千株の草花咲き競う

ここは西宮市のほぼ中央に位置し、市街地の中に黒松やクスギなどの林が残され、豊かな自然の中に越水山遺跡など郷土の歴史が偲ばれる憩いの場として開苑致しました。

吾妹子に猪名野は見せつ名次山
角の松原いつかさむ

(巻二―二七九)

万葉歌人高市黒人のこの歌にある名次山も角の松原の故地も西宮の中にあり、万葉と西宮との深い

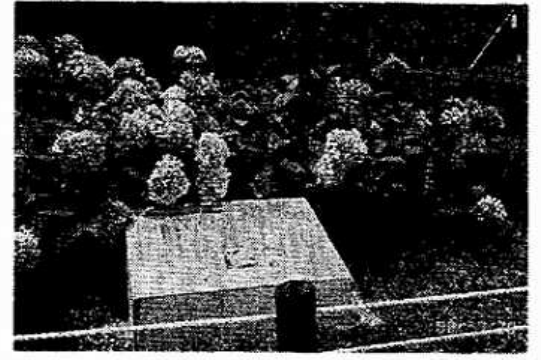
縁をよすがとして、万葉の碩学大養孝氏の指導協力を得て、「万葉植物苑」と名付けられました。

万葉集にうたわれている七十二種の植物が集められ、石に刻まれた歌がそえられて、道すがら足をとめると、一時万葉人の花に托した心の響きが聞こえてまいります。

秋づけば尾花が上に置く露の消ぬべくも吾は思ほゆるかも
(日置長枝娘子)

女郎花咲きたる野辺を行きめぐり君を思ひ出たもとほり来ぬ
(大伴池主)

西宮市西田町
阪急夙川駅下車東へ十分
敷地面積一八、〇〇〇平方メートル



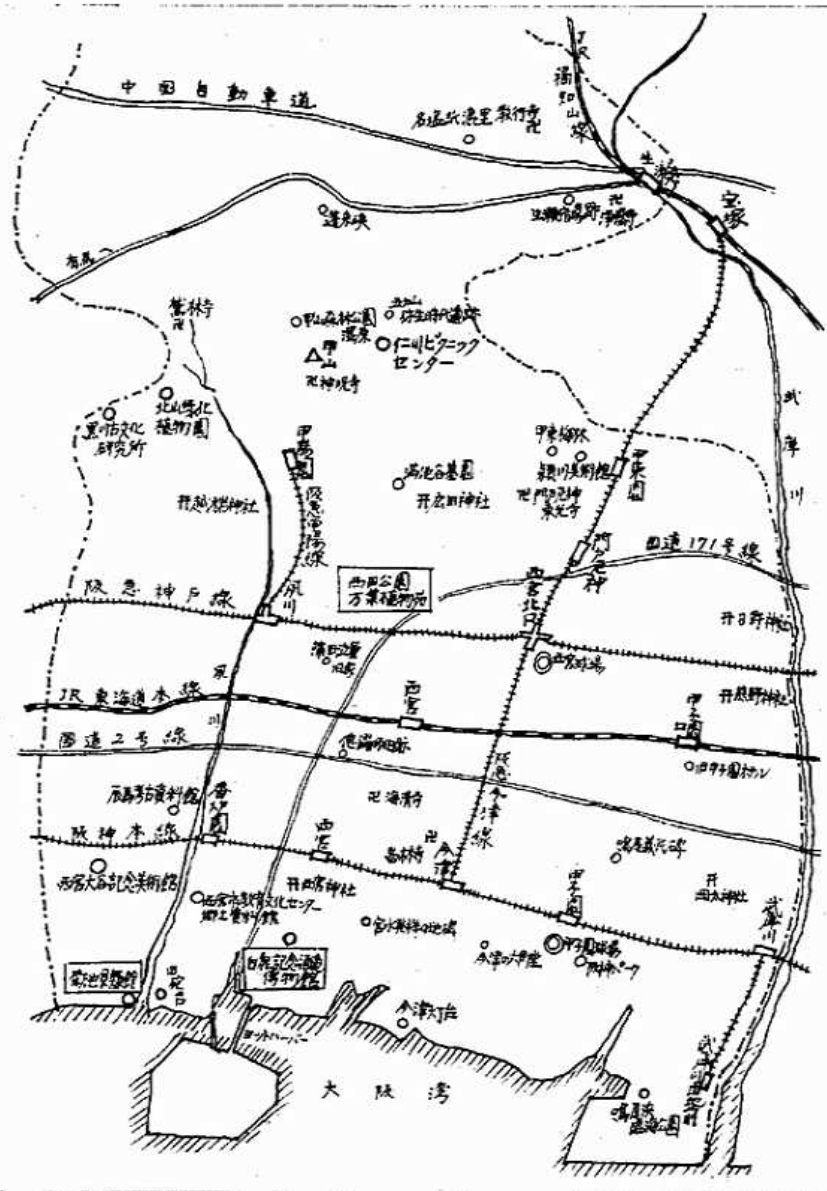
—芳醇な文化の香り—

酒蔵見学と
レトロ趣味満喫
白鹿記念酒造博物館

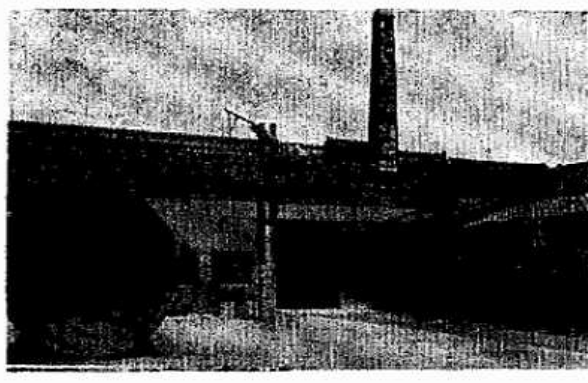
酒どころ西宮にふさわしく、企業経営の博物館としてユニークな白鹿記念博物館は、阪神西宮から南へ徒歩で十分、海の香も匂って来そうな静かな環境にあります。

よく手入れされた広い緑の芝生に神社のたたずまいが奥ゆかしい前庭を進むと、総面積七千五百平方メートルの敷地は三つの建物に分かれ

西宮の観光と文化施設案内図



凡例
 ○ □ △ 開 寺 山 道 私 丁
 観光文化施設 駅 院 社 路 鉄 線
 R 線



ます。中央は「たつみ蔵」、西側が「酒造蔵」、道路をはさんで東の新館が「記念館」と呼ばれます。私はまず深い赤煉瓦造りの「酒造蔵」へ入りました。明治二十五年創建の古いものですが、豪壮な構造と重厚な雰囲気の中に、モダンな感覚がとけあい、現代的な美しさに打たれました。中にはもう今では見られなくなった昭和十九年までの酒造りの工程をはじめ、帳場、倉庫、蔵人部屋、巨大な酒樽、つるべ井戸などが昔のままに生き生きと展示され、強い感動を受けました。また、青々と繁る梅の植込みの美しい中庭には懐かしい水車が回り、米をつく音がのどかに

聞こえます。屋上に高く築いた煉瓦の煙突の形もことごとく風趣があり、文化的な楽しさと安らぎを与えてくれます。勿論、これらの酒造用具類は、皆、西宮市・兵庫県の重要な有形民俗文化財です。酒蔵の一角には煉瓦塀にひととき新鮮やかな白亜の「喜十郎邸」が保存されています。明治二十一年上棟の木造二階建て和洋折衷の住宅で、ベランダと煙突の様式が珍しく、日本人が初めて住んだ洋館といわれ、当時の酒造家の進取的な生活様式が偲べれます。同館の脇には、当時使われた様々の生活用具の展示室があります。

明治・大正時代の電話・ラジオガス燈・酒器・酒瓶など何れも懐しく郷愁をさそわれます。この博物館のもう一つの特色は「記念館」にあります。落ちついた濃いグレーの風格ある記念館の中には、新旧酒造りの対比図などお酒に関する資料の他に、西宮の市花「桜」に関する書画・工芸品文献など貴重な蒐集品が並び、美術愛好家には見逃がせません。「たつみ蔵」では参考資料と各種の名酒が販売されています。

西宮市鞍掛町8-21
 電〇七九八〇〇〇八

「元氣印」

夢子さんからの報告

永尾 照美 (昭30・国)



|| 序 章 ||

この会報の創刊号にKさんから依頼されて何気なく書いたものを読んで下さったNさんから、「十年一昔、その後の経過を是非かかせて」と再三の依頼。そこで先の拙文を読みかえしてみた。まあ、何と若々しく意気こんで……「元氣印」の夢子さん、今、周辺で力を貸し励ましてくれる仲間の顔が

に出たり、県内あちこちの幼稚園や小学校へ、子育ての中で絵本の読みかかせがいかに大切か、また親子の楽しい関係をつくるかなどを話しに行ったり、毎日精一杯のフル回転。思えば、この年は国際婦人年でもあった。

— 回想 —

つづくつづく法師の声にせきたてられた夏休みの宿題のように、乳癌の手術後まだ続く右手の疲れをさすりながら、その後の報告をしたためてみた。

能勢電車の沿線に次々と開けた住宅地の一つ、大阪のベッドタウン川西市へ、一九七〇年、私は開拓者のように移り住んだ。

社会施設は乏しい、図書館は勿論、子どもの本を貸す施設も皆無。翌年、わが家で三度目の「こぼと文庫」を開いた。予想通り、みるみる会員が増え、毎週土曜日、ダイニングキッチンには子ども達で足の踏み場もない状況。

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

ためてみた。

中・高の国語の教師の僅かな経験も楽しかったが、子どもの本の世界はまた異った魅力があり、夢

ためてみた。

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

ためてみた。

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

ためてみた。

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

ためてみた。

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

ためてみた。

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

ためてみた。

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

ためてみた。

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

ためてみた。

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

ためてみた。

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

ためてみた。

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

年目、やっと公共用地と小学校の古プレハブ教室一室を、市が無料で都合してくれた。「文庫が建つよ！」と親も子も大よろこび。大勢の母親の協力で運営する地域文庫へと再出発した。

中・高の国語の教師の僅かな経験も楽しかったが、子どもの本の世界はまた異った魅力があり、夢

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城

一時は千人を超える子ども（幼児・中・高生）、週四日開く「こぼと文庫」は、子どもの本のお城



— 真理は我らを自由にする —

ここで私は素晴らしい言葉に出会った。「真理は我らを自由にする」——聖書の一節という。

戦争中軍国主義教育に固められ、真理を求めぬ方法すら知らず、御上に従うよう育てられた自分の体験と重ねてこの言葉を宝物のように思った。真理を知り自らを解放し人間としての倅せを築く、その学習権の保障としての図書館。

そして新憲法の平和・主権在民・平等の理念の実現なくしては子ども達はもとより私達人類の倅せは守れない……など各講義で明確な方向と意義を学んだ。これは今まで文庫活動で、手さぐりしながら実践してきたことに改めて確信と誇りをもたせてくれた感激の十ヶ月であった。

今年六月、市で六つ目の公民館が図書館を設け、地域に開放することになったのである。私は一つの重い肩の荷をおろした。

— 夢の実現 —

元をたぐれば新聞記者ウィドールの私が、転勤と子育てに教職も諦め悶々と何かを探していた時、息子たちへの読みかかせの中で出会った絵本「こどものとも（福音館）」が私を息子と共に絵本の世界へ迷いこませてしまったのである。更に「子どもの図書館（石井桃子著）」で私の前に道が開けた。いつか子どもを本の世界に誘いこむ仕事をしたいという夢が生まれたのだ。わが子への読みかかせの楽しさは息子たちが中学生高校生を経て大人になっても、本を間に共通の対話の場をもつ楽しみとなった。わが子から文庫活動へ、次に図書館運動へと学習する毎に夢は広がり、度重なる様々な困難の山を皆でのりこえ、その夢がやっと実現した。

今年六月、市で六つ目の公民館が図書館を設け、地域に開放することになったのである。私は一つの重い肩の荷をおろした。

「こぼと文庫」は念願の公共図書館に六千冊の本を寄贈し、これを期して十八年の歩みを記念誌に簡め、今、発展的閉庫で幕を閉じた。文庫を借しむ声も多けれど、

未だに図書館のない当市では、身近かに本の公共サービスが必要と

|| 「元氣印」の 夢子さん走る ||

当時、夢中で走っていた、愛用のバイクに乗って——。「こぼと文庫」という私設の子ども図書館の運営を中心に、子どもの本にか

一方、増え続ける子どもにも困り果て、市に陳情など働きかけて四

かわる若いお母さん達との学習会

果て、市に陳情など働きかけて四

思うからである。図書室の内容を豊かにする。子どもへの読みかきせ。をはじめ地域で協力すること等、次の課題だと思ふ。

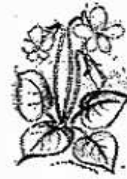
|| フィナーレ ||

十年の後半は大変な道だった。芝居を夢みた長男の夢太郎が、大

学卒業と同時に東京を去り、自然と大地と人間の優しさが残る地、網走で人生のスタートをきって八月、憧れていた北海道知床の麓冬吹雪の山に魂ごと吸いこまれて逝った事、夢二郎が、仲間の手作りで素敵な女性と結婚式を終えあつたからだと感謝している。
(日本子どもの本研究会会員)

最期の四季

荒井とみよ(昭36・文)



病む母に蠟梅の開花を告げる夕暗い空にも試めされている
朝毎に厨に立つと母は云うその足萎えて五カ月なるに
病二年痩せ極まれる母の身を拭き魂の形に触るる
目覚めての長嘆息も日常となり風船葛に秋来る
不機嫌の夫にわかには相好くす陽だまりの中に憩う犬あり
枕辺の桜草色柔らかく母の尿音心地よい朝
振袖に母の半衿着付くれば吾子なつかしき女人なる
会葬に返礼している足もとの敷石の脇の寒すみれ凜
ひとり母の遺影に掌を合わせていると安堵と邪しさのこすれる音す
老婦人の帽子小さき後姿に見とれて佇ちて母の初七日

— お読みにになりましたか —
兵庫県会員による近刊書籍

佐保会への寄贈書
(本部会報127号〜137号より)

(注) それぞれ著者宅にあります。
(初入手の方は、御電話で……)

◆ 日下初子姉(大15・文)

(電06—416—7516)

(一) 「喜田一統の系譜」

— 淡路島福長村 —

(二) 「福長村の歴史」

— 喜田一統の系譜に添えて —

(以上 ナガオカ出版)

(三) 「雑草のひと」

四 「使っていたことば」

— 私の歴史研究 —

(四) 「続・使っていたことば」

(以上 近代文芸社)

昭和四十三年、夫君を送られた

あと、辺土の、無名の百姓の歴史

を調べ、九年かかって(一)と(二)をま

とめられた。福長村は、淡路島の山

ふところに溜池を築き、台地を開

墾してできた村である。

明治時代、耕地がなくて村の医

者になった喜田忠次郎の伝記を書

かれ、それを資料にして小説の形

にされたものが(三)。その村人の方

言を解説された随筆が(四)と(四)。

◆ 佐藤すなほ姉(昭19・家)

(電06—438—6278)

「おばあちゃんのブラジルリポ

ート」 (たまい・らば)

転勤された家族を訪ねて三十五

日間滞伯、七〇〇キロを孫と旅

し、さまざまな体験をされたお母

さん・おばあちゃんのブラジルド

キエメント。帰国後、二年間夢中

で追跡された同国五〇〇年のミニ

歴史・社会編がつく。

◆ 浅野晶子姉(昭23・家) ほか

(電078—231—1001「勤」)

「兵庫県の郷土料理」(同文書院)

日本の縮図といわれる兵庫県の

長い伝統にうら打ちされた多彩な

郷土料理、足で歩いてまとめられ

た価値ある健康料理の数々——各

地特有の料理を、写真・作り方つ

きでユーモラスに紹介。

◆ 大鹿淳子姉(昭26・家) ほか

(電0798—73—3755「勤」)

「ホームエコノミックスと女性」

(昭和堂)

女性問題が喧伝されている今

日、ホームエコノミックスと女性

とのかかわりを現代的視点から捉

え直し新しく展開するもので、女

子大生を中心に家政学や女性問題

に関心のある人を対象とした本。

昭和63年度 佐保婦人学級

昭和58年に産声をあげた佐保婦人学級も今年で6年めになりま

す。年毎に平均寿命ののびる中で、よりよい高齢者のくらしをめざして楽しい勉強の場を重ねていまます。他力本願でなく何でも自ら考えねばと取り組んだ、牛乳パックを生かした葉書作り、の共同研究は今年度の学習のハイライトです。葉書大の木枠をつくり、牛乳パックを水につけて紙の部分だけをミキサーにかけ、和紙をすく要

領で紙をすき、アイロン仕上げをするのですが「言うは易く行うは難し」で、実際にやってみると、なかなかむずかしいものです。草花をはさみ入れたり、好みの色を流したりそれぞれに趣のある葉書が

できあちこちにお便りをして喜ばれたようです。ささやかではありますがこのような運動がひろがればゴミも少しづつ少なくなり資源

愛護にもつながるのではないでしょう。又くらしの中の法律や国際政治の話、現代世界を見る目など、外部講師を招いて私たちの全く知らない裏話などをお聞きして大いに考えさせられました。

- ◆とき 下記の月曜日・午後1時～4時
- ◆ところ 親和学園汲温会館(神戸市中央区下山手通7丁目) 六甲勤労市民センター(JR六甲道駅南)
- ◆会費 年間3,000円 1回500円

月日	学習内容	講師
4・25	開講 ヨーガ	八木 静子
5・30	葉書作り(趣味の文便り)	
6・6	午前 瀬戸生協食品工場見学 午後 知って得するお金の上手な生かし方	
6・20 7・4	健康と食生活 講義 同 実習	津野 貞子
7・25	国際政治の話 現代世界をみる目	京都仏教大学教授 高屋 定国
9・12	手作りのお菓子—おやついろいろ	立花 紀子
10・3	くらしの中の法律	弁護士 佐藤 幸司
10・17	秋を楽しむ—芋掘り	
11・7	酒蔵見学	
11・14	文学散歩—奈良を訪ねて	
11・28	一品持ち寄って我家の自慢料理	
1・23	グルメの会	
2・6	伝えたい日本の文化(折り紙)	
2・20	閉講のつどい	

ハイエイジの方はますます元気で楽しく生きるために、若い方は80歳時代に備えて、どうぞおさそいあわせてお出かけ下さい。

事務局だより

- ◆行事(昭和62・10～63・9)
 - 本部会報、支部だより第11号、会計報告書発送(62・11・27)
 - 新年会(支部だより編集反省会もかねて)(63・1・7)出席32名
 - 昭和62年度佐保婦人学級閉講(63・2・22)於汲温会館
 - 支部総会・議事、記念品贈呈(63・5・29)於パীগ
 - 出席60名(新入者2名)
 - 昭和63年度佐保婦人学級閉講(63・4・25)於汲温会館
 - 睦会(62・10・31)
- ◆計報
 - 井上 周子(S10・保)62・12・15
 - 新谷 きみ(T15・文)63・3・16

もより会のご報告

- 北地区(62・11・1) 12名
- 伊丹地区(62・11・3) 9名
- 西宮地区(62・11・9) 9名
- 東灘地区(62・11・29) 16名
- 尼崎地区(63・2・11) 8名
- 須磨地区(63・3・30) 12名
- 芦屋地区(63・5・15) 12名

●姫路地区(63・5・21) 12名

尼崎地区の目下様より次の様なもより会のご報告がありました。

◆

阪神電車沿線がお当番でした。中野久子さんは市立尼崎高にお勤めですが、近ごろちとおみ足ご不自由なお母君を抱えて大車輪、五十何名にご案内を出して下さいました。

それなのに、二月十一日(木)にお集まりは、ただの八名……。『イヤ、どこもそんなものよ』と慰めて下さる大先輩も見えました。借りてあった広い所は断って、オ

バン独りわびずまいの日下宅で、ご不自由はご免下され。室は狭いので暖かく、お話がはずみました。戦争中の寄宿舎の食糧難の話、中国旅行して広大な草原にトイレがない話、

尼崎では紅一点の土地家屋調査士もいらして、境界問題で困っている人に助言もして下さいました。

やはり同窓生はたちまちうちとけて、楽しいことでした。

今度の支部だよりは西宮地区でと言われ大慌てで、あちこちお願いしましたが、結局もより会でお顔なじみの方に無理を願ってり

直って不安な出発をいたしました。今回は「心の支え、生きざま」をテーマにえらび、先ず西宮在住の会員対象にアンケート依頼からはじめました。未経験な者ばかりで最初は五里霧中の船出にとまどう場面もありましたが、そこは、同窓の有難さ、気心も通じ、潜ぐ力も補い合っただうにか発行という港にたどりつきました。今までの記録を参考にさせていただき本

当に助かりました。お忙しい中ご寄稿賜りました方々、何かとご助言お導き下さいました先輩の皆様、事務局のご協力、ただ感謝でございます。表紙は今回も林画伯のご好意により作品を頂戴いたしました。有難うございました。

編集後記

何分にも不馴れな仕事で、数々の失礼・不行届きの点が多く、申しわけなく存じます。お許し下さいませ。

編集委員
正田純子、森岡泰江、佐々木素子
吉田俊子、長岡加代、長岡三佐子

